

天神さまと想ふへ1

文武の歴史

深澤 弘信

(氏子総代会計・向島町会長)



社にはその創立の由来や護持に関わる長い歴史がある。それを通して私達は時代背景や社寺の存在意味を知ることができる。その歴史が古いほど、謎めいて、時には壮大なロマンの世界を醸し出す。

では、自分の住む土地の氏神様について、どれ程の知識があるかといえば甚だ心許ない。却って奈良京都の社寺の知識の方が豊かな時もある。それは修学旅行の引率の故らしい。学ぶ側より教える側で勉強する方がずっと身につく。生徒と共に先生も、子供と共に親も成長するといわれる由縁であろう。

小学生の頃は深志神社は天神様だけまつるお宮だと思っていた。宮村宮の名は聞いた記憶はあるのだが、天神様の印象の方がずっと強かった。丁度、宵祭りの日から学校は夏休みに入り、子供には学問の神様の方が説明しやすかったのである。

先日、穂高神社式年大遷宮祭で、刀売命は安曇族の女子で、長い年月の中で両族は融合していったとある。諏訪の国とは、諏訪、伊那、松本平、安曇の広い領域を指していたともあった。壮大なロマンだなあと感ずってしまう。

御正忌千年祭の時、深志神社の社宝を見た。古い薙鎌があった。昔、北安曇の小谷神社で薙鎌の神事を見

新殿を見て来た。森の緑に白木造りの社殿が鮮やかに映えて、自然に頭

が下がる神々しさを覚えた。日本の社はやはり素朴で清潔さの匂う白木造りが似合うなど二人で納得してきた。さて、安曇族の由来の案内板を見

てふと思った。宮村宮の祭神の建御名方神は大国主命の子で、諏訪の国津神という。穂高見命を祖とする安曇族は天津神の海人族という。互いにこの信濃国の中心部を開拓していく過程で軋轢は無かったのだろうか。興味を覚えて図書館で文献を調べた。

諸説の中に、建御名方神の妃の八坂刀売命は安曇族の女子で、長い年月の中で両族は融合していったとある。諏訪の国とは、諏訪、伊那、松本平、安曇の広い領域を指していたともあった。壮大なロマンだなあと感ずってしまう。

御正忌千年祭の時、深志神社の社宝を見た。古い薙鎌があった。昔、北安曇の小谷神社で薙鎌の神事を見

境内石碑めぐり《1》

鹿部部真顔の狂歌碑

立廻す高ね八ノ雪の銀屏風ノ中にすみ絵のノ松本の里 狂歌堂真顔

▼この碑はいま、社務所前櫓の根本に立つ。作者鹿部部真顔は本名北川喜兵衛、狂歌堂と号した。宝暦3年(1753) 江戸生まれ、文政12年(1829)没。数寄屋橋外で汁粉屋を営んでいた町人で、はじめ浮世絵と戯文を学び、次いで太田蜀山人に師事して狂歌師となり、寛政以後の江戸狂歌界の一角を支えた。真顔は狂歌を和歌に近づけ、優美高尚なものにしようとし、俳諧歌と称して鼓吹した。

▼松本へは文化2年(1805)にやってきた。この狂歌の稿には、詞書として「雪ふりて景気ことさらに画中に遊ぶがごとし」とある。「松本を取り囲む白銀色の山々を銀屏風に、雪の降りしきる松本の里を、その屏風に描かれた墨絵にこの狂歌は、松本の雪景色を題材とした名吟」「一九が町にやってきた」とされる。なお、本町の名主・豪商倉品家で詠まれた。

奉納絵馬・額紹介《1》

俳諧神祇独吟

奉納 澤木堂 安永5年(1776) 縦63×横85センチ

▼当社には多数の絵馬・額類が奉納、保存されている。これまでは55面が調査対象となり、他にも20数面を存する。元は拝殿、神楽殿などに掲げられていたが、現在は御正忌一千百年祭に改築された絵馬殿に収蔵し、展示している。それらから順次紹介してゆきたい。

▼第一回は「俳諧神祇独吟」の額である。これは俳額の変種ともいえ、折り句を縦横、上下、斜めに詠み、和歌・俳句・川柳で流行し、各句の頭に所定の音を配置して詠み込むもの。



「善光寺名所図会」1849年 天神馬場・富士浅間



▼碑陰には「文政九年丙戌九月立之／般若洞百丈／松濤亭真舘／百中亭彈方／蘆垣真田鶴」と刻まれる。4名のうち般若洞百丈は本町4丁目の肝煎遠山(遠州家) 丈左衛門、百中亭彈方は本名菊家久蔵で、文政9年(1826)、これら4名ほかおそらく松本平での弟子によって碑は建てられたのであろう。この頃、松本での狂歌・俳句・川柳などは全盛期を迎えていた。



「善光寺名所図会」1849年 天神馬場・富士浅間

伝えている。なお戦後、曲と舞をつけ、芸者衆に伝承されていた。

▼場所は当初、深志神社の入口に鎮座する富士浅間社の境内、天神馬場に沿っており、『善光寺名所図会』(嘉永2・1849年)に様子が描かれる。のち或る時は倒伏し、また戦時中は埋没する状況であったが、昭和26年に深志神社境内に移された。

【参考文献】
1 鈴木俊幸「九が町にやってきた―江戸時代松本の町人文化―」高美書店、平成13年
2 青木隆幸「文芸を嗜む町人たち」(松本城下町歴史研究会編)よみがえる城下町松本―息づく町人たちのくらし―郷土出版社、平成6年
3 池田六之助「城下町今昔 わがまち松本―三修社、平成11年

平成21年夏号

深志神社は信州松本城下南深志の地四十八ヶ町氏子の守り神さまです

ふかし



天神祭り

元禄神輿御神幸



平成20年度

ふかし 深志神社社報 第8号

発行日 平成21年7月1日
発行所 深志神社社務所
〒390-0815 松本市深志3丁目7番43号
電話 0263-32-1214
FAX 0263-32-5908
http://www.fukashi-tenjin.or.jp
印刷 (株)日本広告

後記

▼新シリーズの「天神さまを想ふ」には氏子総代はじめ氏子、縁りの方々から随想をお寄せいただきました。同じく新シリーズ「境内石碑めぐり」・「奉納絵馬・額紹介」も始めました

- 1 藤も咲き注連をもらむ森もあり
- 2 嬉しさや神楽に積る六の花
- 3 水はる諏訪や神渡りを幾年も
- 4 富士を漕ぐ鵜舟や神の湖水連
- 5 鹿の頭数を備つ諏訪祭礼
- 6 洩れてくる梅の香もよき井垣哉
- 7 風景や神の湖に福の出来
- 8 東風吹くや神の御山の桃の媚
- 9 漏る月に白木綿照らす冬木立
- 10 昔から神の力を瀧飼い舟
- 11 いつもよく優る誓いの水引
- 12 垢離をとる湖に雪見る富士の景
- 13 鈴虫や神楽にも啼きしおらしい
- 14 糸柳も結ぶや神の森つづき
- 15 餅つきや変わらぬ神の古吉例
- 16 いつもながら神の恵みの深見草

【参考文献】日本民俗資料館・松本市博物館「郷土の絵馬」昭和61年

もうすぐ天神祭りです

【宵祭】7月24日(金)
17:00～ 舞台曳き込み
17:00～19:00 日本舞踊奉納
19:00～ 前夜祭神事
20:00～ 詩吟・剣舞

【例大祭】7月25日(土)
11:00～ 例大祭神事
13:00～ 穂高太鼓奉奏
14:00～17:30 御神輿御巡行
15:00～ お囃子スクール(演奏発表会)
15:30～ 舞台出発



舞台のお祝い



還御の元禄神輿



祭囃子を奉納する子供達



元禄神輿と舞台の出会い

鎌田天満宮 深志神社合祀百年記念祭



跡地入口から碑を望む

今年平成二十一年は、旧鎌田村にお祀りされていた天満宮が深志神社に合祀されてから、ちょうど百年という記念の年をむかえ、合祀日と同じ四月二十五日に百年記念祭を執り行いました。

祭場の鎌田天満宮跡地は、今は児童遊園として地域の子供たちの集いの場となっており、その一面に「鎌田曹公廟跡」の碑が立っています。

この鎌田天満宮の由来を簡単にしておきます。信濃国守護に任命された小笠原貞宗は、井川の地に居館を構え、一三三九年、井川館の東北の鬼門の場所に現在の深志神社である宮村明神(お諏訪様)を祀り、その後一四〇二年、小笠原長基が、北野天満宮を井川館の守護の神として鎌田の地に勧請しました。

時代は進み江戸時代。関ヶ原の戦いで功を挙げた貞宗の子孫秀政は信濃飯田に移封され、その後一六一三年、改めて松本藩へ移封、松本城に入城しました。

その翌年一六四四年八月、鎌田天満宮は宮村明神の北にさらに勧請され、宮村宮と天満宮の両宮は「宮村両社・宮村大明神・宮村神社・宮村天満宮・深志天神」などと呼ば

され、お城と城下町の鎮護の神社として歴代城主により篤く敬われました。

そして、国の当時の方針に沿って明治四〇年・一九〇九年四月二十五日、深志神社に合祀され、現在へ至ります。

百年記念祭にあたり、前七つて本殿近くに記念植樹(紅梅)し、また当日は跡地での神事と記念植樹(紅梅)、深志神社での神事と記念講演会・直会が行われました。記念講演は松本市文化財審議委員会副委員長 中川治雄先生に「鎌田天満宮の歴史」をご講演頂きました。

百年の時が経ち、社殿は失われても鎌田の人達の天神様への心と想いは変わらずに受け継がれています。

なお、今年の天神祭の御神輿渡御(七月二十五日)では、鎌田天満宮跡地へも神幸されます。大勢の皆様にお迎え戴きたく存じます。



拝殿での記念撮影



紅梅記念植樹

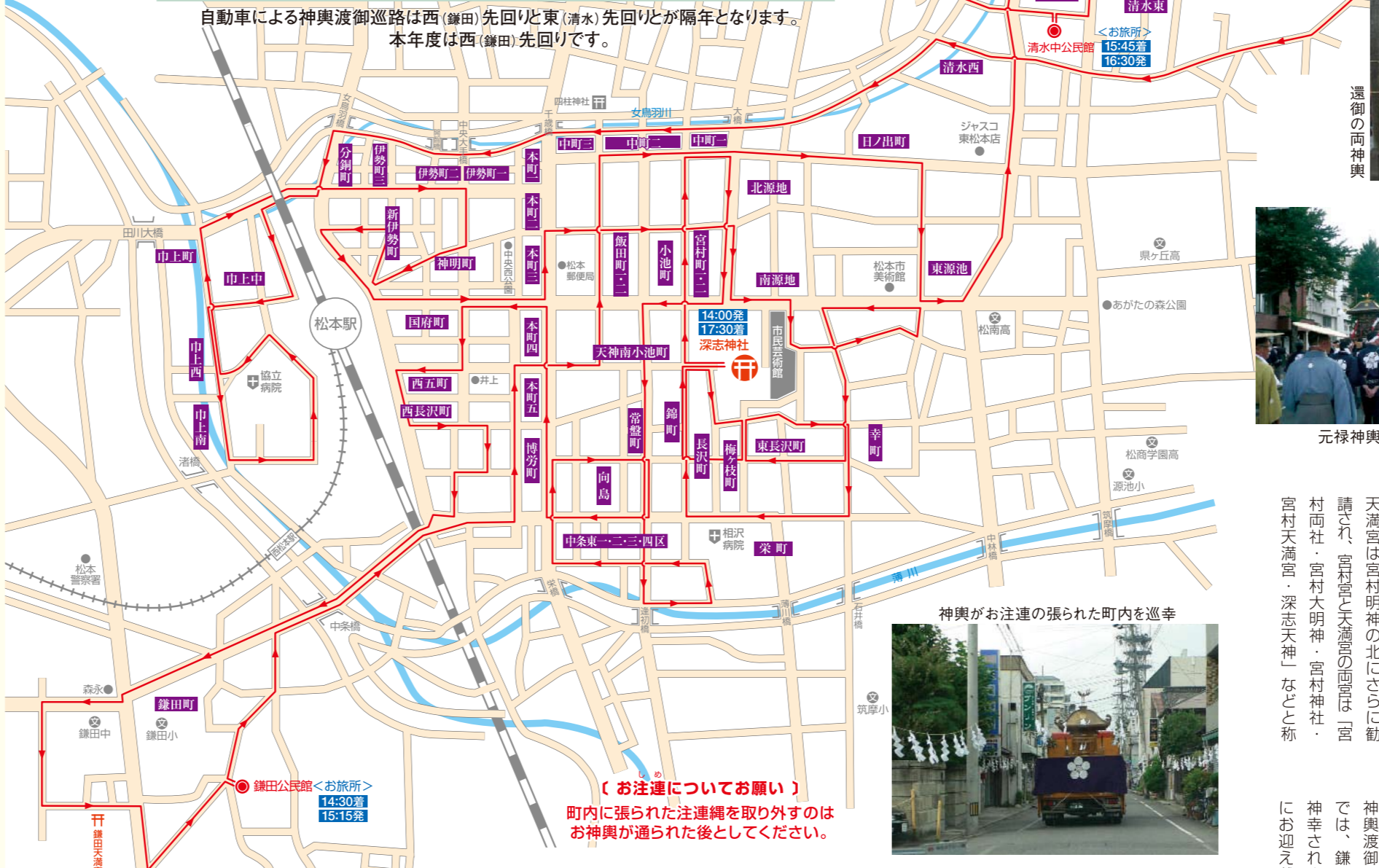


中川治雄先生講演



故地での神事

平成21年度 深志神社例大祭(天神祭り)
御神幸式 神輿渡御巡路 A(車載) 天満宮神輿
7月25日(土) 午後2時～5時30分



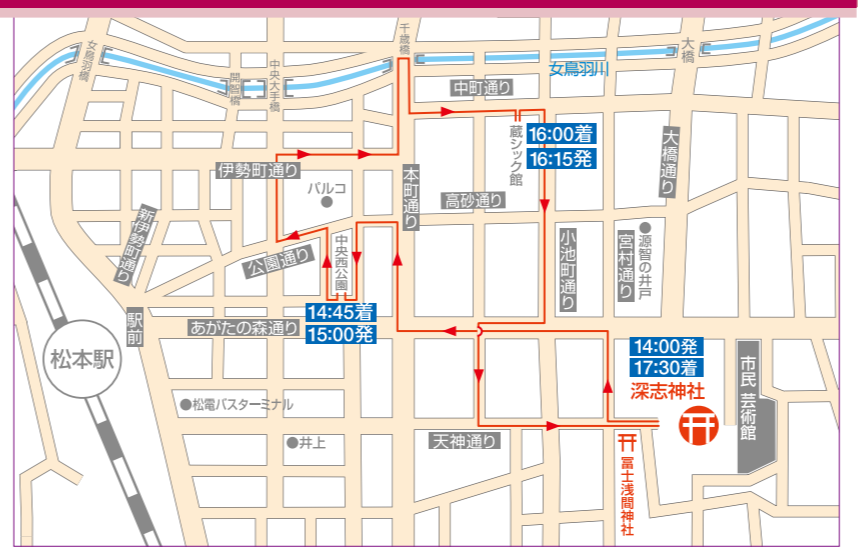
自動車による神輿渡御巡路は西(鎌田)先回りと東(清水)先回りとが隔年となります。本年度は西(鎌田)先回りです。



神輿がお注連の張られた町内を巡幸

【お注連についてお願い】
町内に張られた注連縄を取り外すのはお神輿が通られた後としてください。

元禄神輿渡御巡路 B 宮村宮神輿



信州松本松深会ほかの人たちの奉仕により、かつがれて渡御します

天神祭りのご神幸(25日)
で、お神輿をかつく方や威い儀物、神様をお守りする盾や鈴など)を持っていたたく方を大募集!!
深志神社のおまつりに参加できる唯一の機会です。
氏子や、その他なたでもご奉仕できます。ご希望の方は神社までお申し込みください。



松本深志舞台保存会だより《6》

舞台サミット開催される

5月21日、まつもと市民芸術館小ホールで「響け!松本の祭囃子」と題して第5回の松本市舞台サミットが開催されました。今回は、タイトルのとおり松本の町に伝わる祭囃子がテーマでした。舞台保存会会員を始め〇〇名余の参加者があり、盛大に開催できました。

「松本市舞台サミット」などと謳うと、松本市肝煎りの盛大なイベントかと思われそうですが、実は松本深志舞台保存会の主催行事です。舞台のこととはいえ、自分たちで勝手に松本市のサミットを名乗っているのはいささか気恥ずかしくもありませんが、まあ許してやってください。われわれは行政からも誰からも頼まれもしないのに、やれ伝統文化だ、やれ地域コミュニティの復活だど、松本の文化のためにと勝手に奔走している、そういう団体なのです。

今回のサミットは、舞台保存会が、昨年より取り組んできたお囃子再生事業の1つの決算といえます。昨年は「松本の祭囃子伝承スクール」を開校し、お囃子の伝承に糸口をつけました。同時に祭囃子の教材作成を計画し、「つばし」学習用DVDの作成、もう一つはお囃子の五線譜による楽譜の制作に取り組んできましたが、ようやく完成し、この度の舞台サミットのお披露目となりました。



第5回 松本市舞台サミット



ついに完成! お囃子DVD「松本の祭囃子」

松本深志の祭囃子6曲を収録したDVD「松本の祭囃子」が完成しました。

これは教育用で、指導者のいない町会でも子供たちが自習できるよう、大太鼓、小太鼓、笛、チャンチャンなどパートごとの映像で演奏を習えるように工夫されています。また笛の独奏も収録し、この笛に合わせての太鼓の演奏や、笛自体の学習にも配慮しました。

さらに、このたび松本市教育委員会が蒐集編集した各町会(伝承)祭囃子収録のCD「松本城下町のお囃子」(48曲入り)と解説書および作曲家丸山嘉夫先生によるお囃子の五線譜楽譜が添付されます。

その名のとおり松本の祭囃子の決定版です。ぜひこの機会にお求めください。



【収録曲 かぞえうた ちゃんちゃんりつばかばやし きりばやし しゃがしゃりこ はなぐるま】



伊勢町二丁目舞台竣工引渡 4月19日

今年も2台の舞台の修復が完了し、天神祭りでお披露目されます。伊勢町二丁目舞台は明治25年の制作とされる古い舞台で、原田着深刻の持送りの四神仙像などが特徴です。中町二丁目舞台は明治45年制作の大型舞台で、太田鶴齋による6面の歴史画彫刻を始め、多数の彫刻、および舞台人形神武天皇像が見ものです。神武天皇は衣装も新調され、すのでどんな姿になっているのか、仕上がりが楽しみです。

今回の天神祭りでは、この2台の舞台にご注目ください。